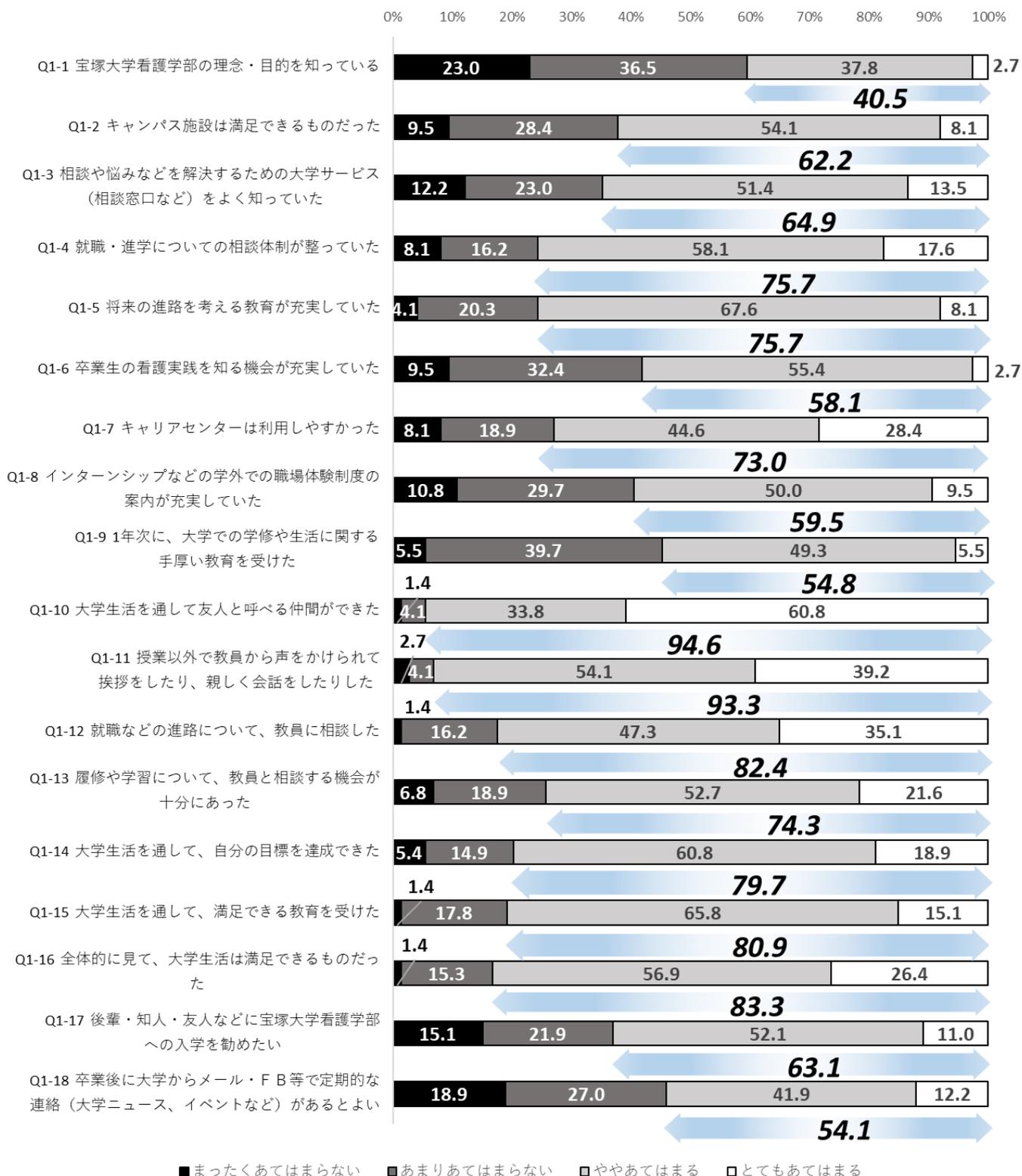


- 実施調査名：「宝塚大学看護学部 2019年度 卒業時調査」
- 実施日：2020年2月7日
- 対象：4年次生
- 回収数：78

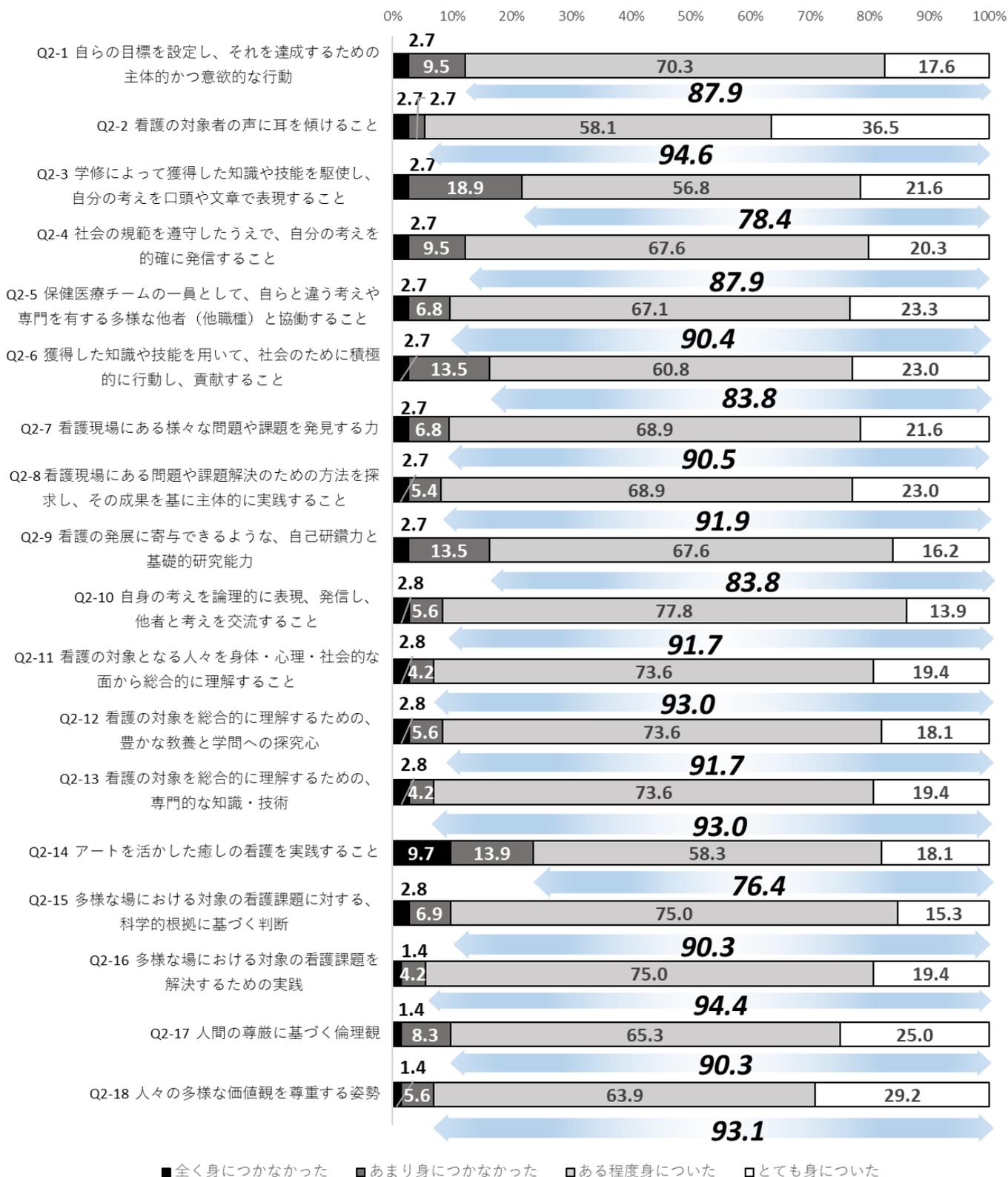
Q1. 大学生活について

※図中の太字・斜体の数値は「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計 (%)



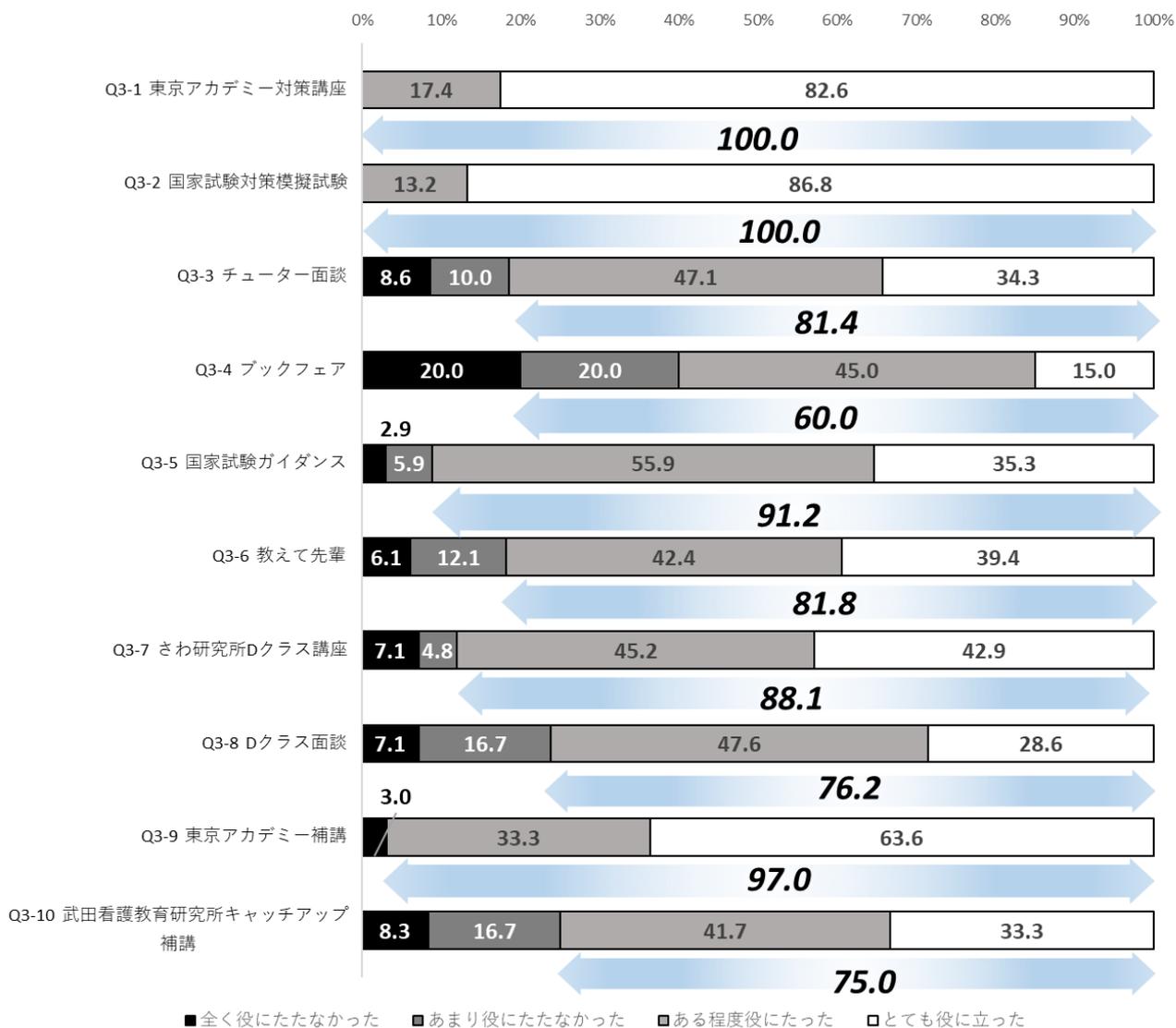
Q2. 大学で身に付けた力について

※図中の太字・斜体の数値は「とても身についた」「ある程度身についた」の合計 (%)



Q3. 国家試験対策について

※図中の太字・斜体の数値は「とても役に立った」「ある程度役に立った」の合計(%)
 Q3-7、3-8、3-9、3-10については、対象となった学生のみでの回答結果を示している。Q3-7
 の回答者数は42、3-8は42、3-9は33、3-10は12である。



Q4. 本学で大学生活を送って良かったと感じている点や、より魅力的な大学になるための改善点などがあれば、詳しく教えてください。

- 先生たちが楽しくて立地が良くて楽しく過ごせました！ありがとうございました。
- サークル
- 第一希望としている学校ではなく、入学後不安なことも多かったが、先生や友人から様々な支援が受けられ、4年間頑張ってくれたと思う。
- 実習が始まりだして、友人も増え、先生との距離も近くなった。もっと1年次から先生と積極的にかかわれてたらもっと楽しく過ごせたかなと思った。
- キャリアの仕事がよくわかりません。仕事・国試。こっちにしてくればかり。キャリアの計画をもっとわかりやすくしてください。2年生まであまり教育体制が整っていなかった（教員の入れ替え多すぎ）。
- 空調管理を3階でする意味がわからない。「暑い」「寒い」を感じる本人たちが調整できた方が良い。
- 4年間ありがとうございました！！
- 毎日図書館の1階で勉強していましたが、図書の方の話し声が大きく、集中できなかったことが多くありました。何度か注意しましたが直った感じがしなかったので改善してほしいです。就活のキャリアセンターのサポートが手薄だった。時間も守らない（早くあがる）し、メールも返してくれなくて困りました。
- 図書館1階で館員の話し声がうるさい。生徒と話す声もうるさい。うるさい生徒がいても注意してくれない。
- 窓があると良かった(?)
- 事務の方や先生方はいつも応援してくださって良い学校だなと思いました。

Q1. 大学生活について

肯定的回答割合（とてもあてはまる+ややあてはまる）がもっとも多かった項目は、「大学生活を通して友人と呼べる仲間ができた」であり、94.6%である。次いで多いのが、「授業以外で教員から声をかけられて挨拶をしたり、親しく会話したりした」の93.3%である。

「全体的にみて、大学生活は満足できるものだった」や、「履修や学修について、教員と相談する機会が十分にあった」、「大学生活を通して、満足できる教育を受けた」も、それぞれ8割程度と高くなっている。一方で、「インターンシップなどの案内が充実していた」や、「1年次に手厚い教育を受けた」、「キャンパス施設は満足できる」といった、具体的内容におよぶ項目については、肯定的回答と否定的回答がわかる傾向にあり、「後輩や知人等に入学を勧めたい」でも、同様の傾向がみられる。教員との距離の近さや友人との出会いなど、人間関係面での充実が、全体的な満足度につながっていることが予測されるが、施設面や教育内容等については、改善の余地があると言えよう。

Q2. 大学で身に付けた力

本項目は、本学部のディプロマポリシーをもとに設定されたものであるが、ワーディング等については次年度に向けて精査していく予定である。今年度については、昨年度同様の項目を使用したため、その結果についてみていく。

もっとも肯定的回答割合（「とても身についた」+「ある程度身についた」）が高いのは、「看護の対象者の声に耳を傾けること」の94.6%、次いで、「多様な場における看護課題を解決するための実践」の94.4%である。おおむね9割を超える項目がほとんどであるなかで、「自らの目標を設定し、それを達成するための主体的かつ意欲的な行動」、「社会の規範を遵守したうえで、自分の考えを的確に発信すること」、「獲得した知識や技能を用いて、社会のための積極的に行動し、貢献すること」、「看護の発展に寄与できるような、自己研鑽力と基礎的研究能力」の4項目が8割台、「学修によって獲得した知識や技能を駆使し、自分の考えを口頭や文章で表現すること」、「アートを活かした癒しの看護を実践できること」の2項目が7割台である。

おおむね、看護の専門性にかかわる領域については「身についた」と肯定的に評価している一方で、学修にかかわる基礎的スキルや社会的行動力等に関しては、それに及ばない。また、「アートを活かした癒しの看護」については、「身についた」とする回答がもっとも低いことから、今後議論が必要な領域である。

Q3. 看護師国家試験対策について

2019年度の国試対策としては、外部業者の協力を含めた様々な講座や企画を実施したが、それらが学生にとってどの程度役にたつものとして評価されているのかを検討するために本項目を設定した。

受験予定者全員を対象に実施した「東京アカデミー対策講座」および「国家試験対策模試」

については、「とても役にたった」が8割を超え、「ある程度」も含めて全員が役に立ったと回答している。また、国試対策のコツや目標の立て方に関する「国家試験ガイダンス」についても、9割程度が肯定的に評価している。「チューター面談」、「教えて先輩」については8割、国試対策のための参考書等を紹介した「ブックフェア」は、6割が肯定的に評価している。ブックフェアについては、全体的な役立ち感是他と比べると高くないものの、GPAとの関連でみると、成績下位層の評価は上位層に比べて高いため、特定の層には有効な取り組みであるとも考えられる（図表は割愛）。

対象者を限定した取り組みでは、さわ研究所よりも東京アカデミーによる補講のほうが、参加者にとっての役立ち度はやや高くなっている。武田看護教育研究所の補講については、対象者が少ないため参考程度の数値としてご覧いただきたい。